

山梨県立中央高等学校創立五十周年記念式典 教育長祝辞

日ごとに秋の深まりが感じられるようになってまいりました。本日ここに山梨県立中央高等学校創立五十周年記念式典が盛大に挙行されますことに山梨県教育委員会を代表いたしまして心からお祝い申し上げます。

今から七十二年前、太平洋戦争後の昭和二十三年、新たな学校制度のもと全国に新制の高等学校が誕生し、多くの高校に全日制課程に加え、定時制課程が設置されました。甲府市内においても、甲府第一高校、甲府第二高校（今の甲府西高校です）、市立甲府商業高校の三校に定時制課程が置かれ、合わせて甲府第一高校には通信制課程も設置されました。

県立中央高等学校は昭和四十六年、県内初の定時制課程と通信制課程を併置する独立の高等学校として甲府市飯田の地に開校されました。これは定時制課程・通信制課程ともに先ほど申し上げた三校から移管された形でのスタートで、その意味で中央高校は三校の歴史の一部を受け継いでいることとなります。

以来、半世紀にわたり、中央高校は、本県の定時制・通信制高校教育の中心として、単位制への改編や二部制、三部制の導入など、時代の変化や社会の要請に合わせた教育課程の改革を重ねながら大きく発展し、これまで多くの生徒が人生におけるかけがえのない一時期を中央高校で過ごしまいりました。

さて現在、中央高校で学ぶ生徒の皆さん、皆さんは今、母校創立五十周年という節目に立ち会っています。いつの時代もそれぞれの社会背景の中で飯田の地の校舎には様々な形の若さ溢れるエネルギーが満ちていました。若さ溢れるエネルギーとは悩みや不安を抱えながらも、それでも目の前のことに誠実に頑張る、そういう姿勢から生まれるエネルギーです。悩みや不安と隣り合わせの時期、だからこそ多くの大人が自分自身の高校時代をなつかしく振り返るのだと思います。

皆さんも中央高校で学ぶ今の自分の姿、悩みや不安を時に抱えながらもまっすぐに前を見て歩もうとする自分の姿を、十年後、二十年後、そして五十年後に振り返ると思います。その時、高校時代の自分をなつかしく思うとともに、その健気な姿に励まされる、皆さんの今と将来はそういう関係になってほしいと思います。これからの人生における皆さんの健闘を心よりご期待申し上げます。

結びに、これまで中央高等学校発展のためにご尽力いただきました歴代の校長先生をはじめ教職員の先生方、同窓会の皆様、そして保護者、地域の皆様、関係各位に深く感謝申し上げますとともに、山梨県立中央高等学校の益々のご発展をお祈り申し上げます、祝辞といたします。

令和二年十月二十四日

山梨県教育委員会 教育長 齊木邦彦